

## 領域「環境」における簡単な標識や文字などの指導について

— 発達段階、日豪の比較を通して —

The Comparison of the Instruction of Letters and Marks in Early Childhood Education in the Case of Japanese and Australian Children

横井一之 小野克志 千田隆弘 木本有香 菅田達也

Kazuyuki YOKOI Katsushi ONO Takahiro SENDA Yuka KIMOTO Tatsuya SUGATA

キーワード：領域「環境」、文字・標識の指導、発達段階、日豪の比較

Key words : environments, the instruction of letters and marks, developmental comparison, comparison between Japanese and Australian children

Abstract

A course of study in kindergartens and a nursery teaching outline started in 2009 are mutually very similar in their contents; in the field of “environments,” both outlines say that we can get children to be interested in letters and marks in their kindergarten life.

In this paper, we discuss a method for the instruction of letters and marks. Yokoi, the main writer, is in charge of T Nursery School, Senda of K Nursery School, and Ono, Kimoto and Sugata of some Australian kindergartens.

### はじめに

平成21年より実施されている幼稚園教育要領と保育所保育指針は、前年までのものと比較するとその内容がかなり統一されている。領域「環境」においては、幼稚園教育要領では内容(9)、保育所保育指針では内容⑩に「日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」と表わされている。

本稿では、この「簡単な標識や文字」の指導はどうあるべきかを領域「環境」の視点から論ずる。

なお、T保育園での調査とまとめを横井、K保育園を千田、オーストラリアの幼稚園を小野、木本、菅田が担当した。

### 1. 「簡単な標識や文字」の扱いの変遷

(1) 幼稚園教育要領（以下「要領」と省略）の中での変遷

平成元年より実施された幼稚園教育要領において、領域「環境」が誕生した。この領域「環境」の内容は10項目しかなく、この時点では「簡単な標識や文字」の指導は含まれていない。この項目が環境の内容に含まれるようになったのは平成12年より実施された要領からで、内容(9)に「日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」とある。同じ文言が平成21年より実施された要領でも、内容(9)にそのまま受け継がれている。平成12年の要領解説では、この項目について、文字については「はさみ」を例に上げ、標識については「生活の中で様々な標識（交通標識など）に触れたり、自分たちで標識（学級の標識、グループの標識、トイレの標識など）を作って生活したり、遊んだりする中で、標識が意味やメッセージをもっていることに気付くことも大切である」と説明している。

また、平成21年の要領解説では、平成12年の説明をそのまま継承している。

## (2) 保育所保育指針(以下「指針」と省略)の中での変遷

「簡単な標識や文字」の扱いは平成11年改訂の指針から登場した。具体的には第10章 6歳児の保育の内容「環境」(14)に「身近にある標識や文字、記号などに関心を示す」とある。それ以前の指針にはこの項目はない。

これを受けた形で、平成20年告示、平成21年実施の指針では、教育に関わるねらい及び内容、領域「環境」の内容①に「日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」とあり、指針解説書では、「保育所では一人一人の子どものマークを決めることがあります」、「使われている言葉が特定の文字や標識に対応していることや、文字によるさまざまな表現があることを、絵本などに親しむ中で気付くことができるよう配慮することも必要です」と説明を加えている。

## (3) 「簡単な標識や文字」の指導について

平成12年当時、幼稚園・保育所の一元化の発想はあったが、認定こども園として一体化が具現化したのは平成18年10月からである。その意味で、平成21年の要領、指針とも新たに認定こども園を想定して作成されている。よって、指針が要領に歩み寄った形となっており、平成11年には3歳児から6歳児まで48項目あった指針の内容が、平成21年には12項目となっている。この12項目は平成21年の要領11項目の内容と、ほぼ同じである。繰り返しになるが、一元化という点から、要領と指針の項目数及び内容がほぼ一線となったことは画期的な出来事である。

平成11年の指針では、「簡単な標識や文字」の内容が5歳児以前ではなく、6歳児の保育の内容に登場することから、「マークを利用する」ことから始め、他の項目の「遊具を用いて遊ぶ」「物の性質に興味をもつ」と同じように、人間が長い歴史の中で作り上げた「標識や文字に関心をもち、その仕組みに興味をもち、生活に取り入れて遊ぶ」と解釈すべきであろう。具体物、抽象物の区別できる大人にとっては標識や文字、そして積み木などの玩具、樹木などの自然物はその成因からは別のものである。しかし、幼児にとっては、どれも生まれたときから周りにあるもので、すべて環境である。幼児の身近な環境を取り入れる力を養う領域「環境」の立場からは、

幼児の周りの物は、有形無形を問わずすべて環境で、それらを生活に取り込んで、より豊かに遊ぶことが大切である。

## 2. 発達段階に視点を置いて

実際に幼稚園や保育所では「簡単な標識や文字」の指導をどのように行っているか、また発達段階でどのように違いがあるかを保育者への面接を行い調査した。以下に、その様子を述べる。

### (1) 2歳児クラスと3歳児クラスの事例

a 調査日時 平成21年8月3日（月）午前中

b 面接調査場所 A市T保育園（以後T園と表す）

c 調査対象 主任K先生

d 調査内容

① 2歳児はまだ文字が読めないが、幼児の靴箱、机の上に各幼児の印となる折り紙の切り抜きを貼っている。例えば入所時に愛ちゃんの印はリンゴと決めたら、愛ちゃんの机の上と靴箱の靴を置く板の上にリンゴの切り抜きを貼っている。机上也靴箱も濡れたときのために、すべてをビニルテープで覆って保護する。このとき、折り紙の切り抜きの上に、ひらがなで「あい」と名前を記入する。

② この切り抜きは、進級して3歳児クラスになっても同じものを用いる。

③ 2歳児クラスから卒園まで、保育の始まる時には題材名を黒板に書き、幼児と一緒に読み上げてから、保育を開始している。本園では文字に興味をもつよう指導している。

④ 3歳児から文字の指導は行っているが、愛ちゃんなら「あ」と「い」、つまり自分の名前に用いている文字から、まず興味付けを行っている。順次、友だちの名前の文字へと興味を広げていく。

⑤ 毎年正月にカルタ会を実施しているが、ほとんどの3歳児が全てのひらがなを読むことができる。

(⑥4歳児になると、10月よりすべての平仮名を書くように指導する計画である。)

### (2) 5歳児クラスの事例

a 調査日時 平成21年8月18日（火）午後

b 面接調査場所 M町立K保育園（以後K園と表す）

c 調査対象 O園長先生、年長担当A先生

d 調査内容

① 本を読んでいる。

② 絵本作りをした。絵のみの子、物語も考えた子がいる。その際文字を使っている。

③ 自分の名前がひらがなで書けるようになっている。

- ④ 1月過ぎに手紙ごっこ、郵便ごっこをする予定  
年長はワークブックをもっている。ワークブックは4歳からもっている。
- ⑤ 文字に関して、新しい歌を歌うときに歌詞を書いてそれを見て歌うという活動。  
ワークブックには数字や50音が出てきて、数字は1, 2, 3, 4と指導する。  
動物が何匹いるとか指導する。具体的に数を数えたり、その数の動物を色で塗ったりする。  
数え方もでてくる。動物だったら匹、ウサギは羽など数え方も出てくる（助数詞）。
- ⑥ 50音に関しては、アイウエオ順でなく、似た形状の文字と一緒に学ぶ。  
たとえば、「し」と「も」、そして「し」であれば「しまうま」の「し」や、クラスのしんや君の「し」とか、学ぶ。
- ⑦ 文字は、形だけでなく、書き順、その方向を学ぶ。  
自由遊びの中で、自由帳を各自が持っている。  
鉛筆や消しゴムが常時自由に扱えるようになっていて、そこでひらがなを書いている子もいる。
- ⑧ クラスにホワイトボードがあり、そこにはたとえば8がつ8にち（ようか）（げつようび）と書いてあり、朝の会でそれを確認している。  
その際、英語でも、It's Monday. と確認する。天気についても、日本語と英語で確認する。晴れとかfineと確認している。
- ⑨ 標識の役割で、おとうぼんひょうがあり、～グループとあり、マグネットを移動して、どのグループが当番か分かるようにしている。
- ⑩ 保育室等の各部屋には、標識がついており、分かりやすく工夫されている。  
その部屋がどんな部屋なのかわかりやすいように、配膳室だとか、一時保育室（字は読めないかも知れないが、緑の帽子のこどもの部屋へいくよ）とか、子ども達への（指示）情報伝達手段に利用される。
- ⑪ カレンダーについて、子どもから「何でここの数字は赤色なの？」と。「休日だから」とか答える。「なぜ国旗がついているの」「祝日だから」とか「特別な日だから」と答えているそうである。  
30日など最後の日には、「明日からは何月になるの？」と聞いている。  
青い色は土曜日と伝えてあり、子どもが色に着目しているようだ。  
そういう関心の実態がある。
- ⑫ 男子トイレ黒、女子トイレ赤、というのも関心をもっている。
- ⑬ 時計も標識みたいなものだ。「長い針が6のところになったら、お片づけするよ」というように指導している。
- ⑭ 道路標識、交通標識は特に日常では教えていない。ただ、交通安全指導や戸外へ散歩に出

たときに目に触れたときは、説明している。

- ⑮ 信号も、同じように指導している。

### 3. オーストラリアの幼稚園での事例

小野、菅田、木本の3名がオーストラリアで学生を保育実習のために引率した。巡回指導の際に、オーストラリアの幼稚園で保育に携わっている教師に「簡単な標識や文字」の指導について面接調査を行った。以下にそれを記述する。なお、面接調査には横井も訪豪して同行した。

#### (1) オーストラリア面接調査 1

- a 調査日時 平成21年8月13日(木) 午前10時~10時30分
- b 調査場所 Bright Horizon (以下BHと略す) Australia Childcare Helensvale
- c 調査対象 Carol 園長先生
- d 調査内容
- ① 子どもが文字に興味をもつように何かしていることはありますか。  
読み聞かせ、絵本、手遊びで数字を示したり、数えたりします。
- ② 文字を示したりしますか。  
この教室はまだ、2, 3歳児なので掲示してありませんが、5歳児のクラスでは文字が掲示してあります。
- ③ 標識に興味をもたせることは何かしていますか。  
ABCフラッシュカードを用いています。リンゴのフラッシュカードとか。  
具体的に(絵本大のフラッシュカード)(図1のような絵本を利用)
- ア リンゴの絵  
イ ボールの絵  
たばこのケース大のフラッシュカード。こちらは、日本語も並記してある。
- ④ 3歳児では文字が読めないので、横井の物にはブタのシールを貼る、小野先生の物にはクジラのシールを貼るといようなことはなさっていますか。  
5歳児ではそうしています。出来る限り文字を教えるようにはしているのですが。
- ⑤ 3歳児の子どもは文字をすべて読めますか。  
すべての文字はむずかしいです。HANAという名前だったら、自分の名前の文字から指導します。HANAだったら、Hから覚えます。
- ⑥ HANAは文字を書けますか。  
いいえ。3歳児で1, 2人はできるかもしれないけれど、むずかしいです。  
上のクラスへ行くと、もう少しできると思います。

## (2) オーストラリア面接調査 2

- a 調査日時 平成21年 8月13日(木) 午前11時25分～11時38分
- b 調査場所 Labrador Central Neighbourhood Early Learning Centre(以下 NELC と略す)
- c 調査対象 Joanne 先生(年長組担任)
- d 調査内容
  - ① 音楽を聞いたり、物語を読むことで言葉に興味を引きつけている。
  - ② 文字や標識は、子どもの興味に従って教えている。
  - ③ 遊びの中で、指導するようにしている。
  - ④ 文字を学びましょうという週を設けている。これにより興味付けしている。
  - ⑤ おもちゃの文字を利用している。

## (3) オーストラリア面接事例 3

- a 調査日時 平成21年 8月13日(木) 午前11時45分～12時5分
- b 調査場所 ABC Developmental Learning Centres(以下 ABC と略す)Labrador
- c 調査対象 Sue 園長先生
- d 調査内容
  - ① 週により文字を替えて指導している。今週は K である。  
J を例にすると、Jumping, Jackなどを指導している。
  - ② CD のアルファベット・ソングを利用して指導している。

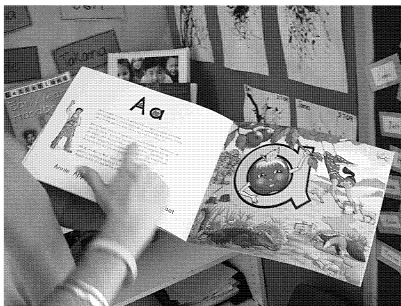


図1 文字の絵本(左は解説)

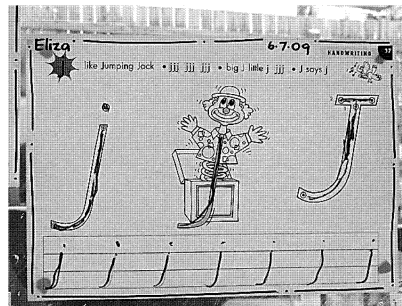


図2 文字の練習(ガラス戸に掲示)

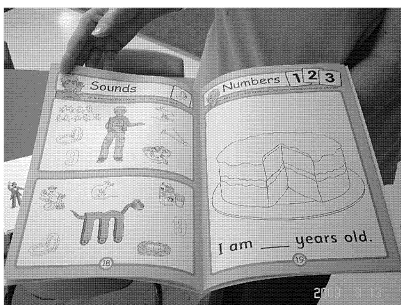


図3 数のワークブック

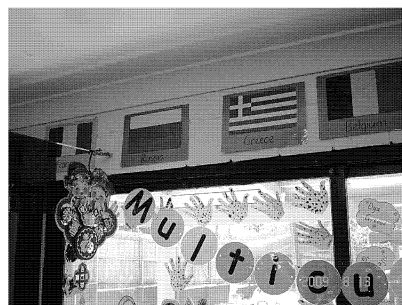


図4 万国旗(多文化主義)

- ③ 4歳から書く練習を始めるが、本格的には5歳からである（図2参照）。
- ④ 数の指導にはワークブック（図3）を用いている。
- ⑤ 多文化主義“Multiculturalism”に関心をもつように保育室に万国旗（図4）を掲示する。

#### (4) オーストラリア面接事例4

- a 調査日時 平成21年8月13日（木）午後1時30分～2時
- b 調査場所 Aussie Kids At Mermaid Kindergarten & Child Care(以下 Aussie Kids Mermaid と略す)
- c 調査対象 Janine 園長先生
- d 調査内容
  - ① 文字の指導はどのようにしていますか。  
aからzまでを基礎から教えます。
  - ② 標識を教えることはありますか。  
絵と言葉、一致するように指導します。
  - ③ フラッシュカードを用いて、文字を教えることはありますか。  
4歳児から取り組みます。
  - ④ 朝の会では、毎日絵本を読み聞かせしている（図5）。
  - ⑤ 歌の歌詞とイラストを保育室などに掲示している（図6）。
  - ⑥ 年齢の低い学年では、直接子どもの顔写真を用いて、標識やマークのように使用している（図7）。
  - ⑦ 文字を書く練習は自分の名前を用いて始める（図8）

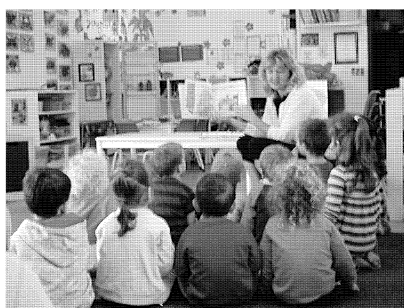


図5 絵本を聞く（4歳児朝の会で）

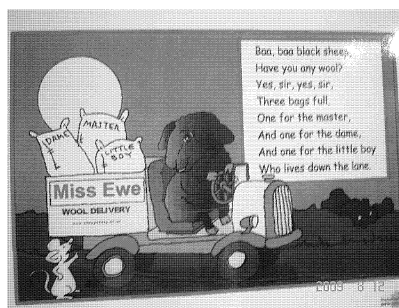


図6 羊の歌（廊下の掲示）

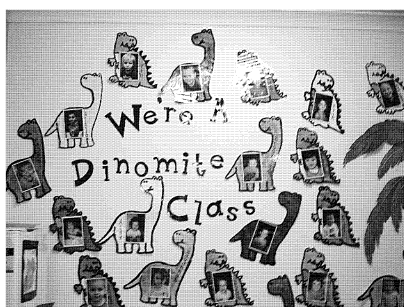


図7 顔写真を用いて（クラスの紹介）



図8 自分の名前を書く（5歳児）

## 5. 考察

「簡単な標識や文字」の指導の第一歩は、自分の物を表す印（マーク）の指導から始まる。リングやミカン、またはウサギやサルなどのマークを一人ひとりの子どものシンボルとして用い、リングは「あい」ちゃんのマークというように、日常生活の中で指導し活用している。子どもは生活の中でごく自然に標識や文字に興味を示し、何度も用いるうちにその機能を理解し、使用できるようになっていく。

ここで「簡単な標識や文字」の認識の発達についてまとめたい。2歳児は身体表現や手遊びがやっとならなくなったところで、十分に認識することはできない。手や腕の形も、×や○の形を作ると「よい」や「いけない」を示すことからわかるように、簡単な標識の1つである。3歳児になると、身体が思うように動かせるようになり、「簡単な標識や文字」に受動的にかかわるのみでなく、これらの○や×の表現も含め、手を振ったり、ペーをししたり、言葉以外で積極的に表現しようとする。これは「簡単な標識や文字」を用いた表現ではないが関連が強い。さて、幼児の身の回りの「簡単な標識や文字」として運動会の走りっこや徒競走に目を向けてみる。3歳児は曲線に沿って走ることができない。筋力が十分でないから身体の制御がまだうまくできないからである。よって、走りっこでは前方のコーンを目標の標識として競争する。4歳児になると、不十分ながら曲線のトラックに沿って走ることができる。しかし、ゴール後に大人の援助なしに到着順に着席することはまだできない。ところが、5歳児になると、ゴール順に順位の番号（文字の1種）の旗（標識）のところに並ぶことができる。このように幼児は幼稚園や保育園の活動の中で「簡単な標識や文字」に関心を持ち、自分の中に取り入れ、それによりさらに生活や遊びを豊かなものとしていく。

ところで、文字の発音、つまり音声に目を向けると、その発音に特徴があるので興味が高まることがある。幼児ではなく大人の例であるが、ある喫茶店の名称について述べたい。M県S市にシャムロック“Shamrock”という名の喫茶店がある。イギリスの探偵ではなく、シャムロックはシロツメクサやカタバミのような三つ葉の草を表し、アイルランドの国章である。驚いたことには、店主夫婦はアイルランドを知らずに、店名を単に「小さい文字の入った粋な名前にしたかった」ということだ。拗音(ゃ)、促音(っ)の含まれる感じの良い言葉を探したら、シャムロックに行き着いたようだ。自動車を「ブウブ」、食べ物を「マンマ」など、幼児が物そのものでなく、音に興味を示し、そのように物を呼ぶことはよくあることだ。赤い果実を「リング」と発音する場合と、“an apple”と発音する場合は、幼児がどちらにより興味を示すか探してみたい。確かに、喫茶店の名前が「シロツメクサ」、「カタバミ」又は「シャムロック」かで、出てくる飲み物のイメージが大きく変わってくる。

次に、オーストラリアの幼稚園(1)BHでは、3歳から自分の名前に関連するアルファベットは指導している。幼児が文字に興味をもつように、フラッシュカードを用いている。幼稚園で



は、あくまでも興味をもつようにするのみで、文字を書くことを目標とはしていない。(2) NELCでは音楽や物語を用い、ごく自然に文字に興味をもつようにしている。遊びの中で文字に興味をもつようにしている。「文字を学びましょう」という週目標を設け、集中的に指導する場合もある。(3) ABCでは、週毎にアルファベットを替えて指導している。アルファベットの音楽も興味付けに利用している。アルファベットを書く練習も5歳から本格的に行う。あわせて数や数字の指導も行っている。また、万国旗に関心を持たせることは国の方針である多文化主義の上からも大切である。(4) Aussie Kids Mermaidでは、(3)と同じようにアルファベットを順に指導している。また、フラッシュカードを用いている。図6のように、マザーグースの歌“Baa, baa, black sheep ……”を絵とともに歌詞を廊下に掲示し、興味付けを行っている。写真等の保育教材も豊富に利用し、幅のある指導がなされている。

日豪の「簡単な標識や文字」の指導について比較すると、同じ点として、①興味付けに重点を置き、文字そのものの習得は方向目標である。②幼児にとり、最も身近な名称は自分の名前であり、これを用いて文字指導を始める。

異なる点として、①日本の保育園、特にK保育園では、きめ細かな指導がなされている。絵本作り、数字、文字の書き順、英語、カレンダー、時計、信号など、取りあげる内容が豊富である。②日本の保育園では、指針の上では文字を書くことを目標としてはいないが、実際は到達目標のように扱っている。良い意味では指導が徹底している。これは日本人とオーストラリア人の国民性や学力観の差異によると思われる。

## 参考文献

- ・文部省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館, 1999
- ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館, 2008
- ・厚生省児童家庭局保育課『保育所保育指針』フレーベル館, 1999
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館, 2008
- ・吉田淳『保育内容「環境」を学ぶ』福村出版, 2001
- ・阿部明子『保育内容言葉』建帛社, 2008
- ・地球の歩き方編集室『アイルランド』ダイヤモンド・ビッグ社, 1998